

2023年度第4回 外洋常任委員会 議事録

1. 開催日；2023年12月1日（金）18:00～19:40
2. 会議の場所及び方法：会場と ZOOM による WEB 形式併用
会場：JSAF 事務局（JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階）

出席者：(理事) 馬場会長

中澤信夫 副会長、中村隆夫 副会長、大村雅一 常務理事、望月宣武 常務理事、鈴木祥子 理事、石川彰 理事、井上貴支 理事、岩瀬喜貞 理事、沼田浩行 理事、船澤泰隆 理事、中村和哉 理事、萩原ゆき 理事

(委員会関係)

三浦伸郎 レースマネジメント委員会外洋小委員長

日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員長

坂谷定生 参与

(事務局)

鈴木保夫

(敬称略)

記録者 鈴木保夫

3. 議事

18:00 より中澤副会長の開会の挨拶、続いて馬場会長の挨拶の後に大村常務理事の進行で開始した。

(1) 報告事項

① 2024年のレース、普及事業の状況について

・外洋ダブルス

中村和哉理事より、資料「外洋ダブルス日本選手権 2024 概要」に基づき、2022年、2023年と同様に4月29日から開催し、スタートは5月1日、多くの方が参加できるように、早めに案内すること等が説明された。

・沖縄東海レース

坂谷参与より口頭で以下の報告がされた。

日程は従来と同様に4月29日スタート、タイムリミットは5月8日、従来使用している宜野湾マリーナがビルフィッシングのために使用できず与那原ヨットハーバーと夏に協議したが、与那原マリーナの指定管理者が変わったので最終確認の必要がある。

スタート海面が変わるのみで他の部分は同じでスケジュールはクリアできる。

・馬場会長のクラブ回り

石川理事より以下の報告がされた。

11月25日より28日迄、閑上ヨットハーバー、松島ヨットハーバー、気仙沼、石巻ヨットクラブ、石巻市役所、小浜ヨットハーバーを訪問して各水域の代表者たちと意見交換を行った。

JSAF側の参加者は、馬場会長、中村副会長、大村常務理事、石川理事、長塚理事、尾形理事。

・海と日本プロジェクト

松澤理事より資料に基づき以下の説明がされた。

今まで同じような事業を繰り返していたので、来年度からは新しい形で進める。ヨットクラブやマリーナに使ってもらえるように、JSAFでプロジェクトを考えてまとめて紹介し、プラスアルファで独自のものを加えて頂けるようにする。

セーリング・プラス・学びを考えている。

② 外洋団体長会議（1月28日）について

第20回外洋団体長会議が1月28日（日）にJAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 3階会議室でWEBとの併用で開催すること及び主な議題が大村常務より説明された。

③ 情報プラットフォームについて

望月常務より、今年度末に新システムへの移行を予定していたが、十分に加盟団体の理解を得るため来年度中に延期することにしたこと、及び艇のチーム登録についての概念が説明された。

これに対して、入金確認のタイミング、非会員の艇登録についての確認、チームの概念を導入する理由、大会のエントリーについての質問が出された。望月常務からは引き続き加盟団体や艇登録事務局の意見を聞いて進めることが説明された。

④ World Sailing 総会等の状況

鈴木理事より、総会において以下の点等が議論されたことが口頭で報告された。

OSRの一部の定義、灯台表の削除、カウンティングキール等の新しいテクノロジーへの対応、ファーストエイドに通じているクルーの人数、スタビリティ、ビルダーの溶接技術者の育成、ブリスベーンでの外洋ダブルス、ユニバーサルメジャメントシステムについてIRCとORCが協議中等。

報告内容が多岐にわたることから、大村常務より概要を後日文書で提出するよう求められた。

⑤ サバイバルトレーニング状況

大村常務より、2021年より進めてきたが初めて北九州以外で10月に2回行われ10名が受講し、初回から現在までに通算51名が証書を受けたことが報告された。

(2) 各委員会、各水域

以下の報告があった。

- ・レースマネジメント委員会外洋小委員会（三浦）
今年度の合同委員会会議では、新しくレースを始めってもらう方向けにヨットのルール、安全をテーマに考えていく。ディンギーのレースとの違いも説明する。
- ・ルール委員会外洋規則小委員会（日下部）
合同委員会会議の案内状を出した。現在外洋規則 2009 の点検をしている。
- ・北海道東北水域（石川）
函館での団体長会議への参加のお礼と、冬に入り今年のレース活動期間が終了したことが報告された。
- ・関東水域（井上）
大きなレースは終わり、コロナ前と同様にクラブレースやパーティーを行っている。
- ・中部水域（岩瀬）
駿河湾横断レースは天候の影響で中止、その他のレースはコロナ前と同様に行われ、東海ではレースは予定通り行われ、年末パーティーも終わった。
- ・関西水域（中村和哉、船澤）
シマ精機カップはスポンサーが降り、独自に開催した。
大阪湾では予定通りレースが開催された。

(3) 海洋関係団体の状況（JCI、海レ協）

- ・JCI（鈴木保夫）
昨年の知床の事故の件で検査体制の見直しが国交省より求められ、今年度中に改善策の取り纏めに集中している。
検査の技術者の増員の必要があり、経費がかさみ今後財政が悪化することが予想されている。そのため今年度に予定していた JSAF との連絡会議が来年度以降になる。
- ・海レ協（大村）
海洋レジャー安全協会は財政的に厳しくなっている。
ヨットの安全を確保する観点から、JSAF は海レ協と海の振興を含めて協力していく。

(4) 明日の理事会の概要

12月2日開催の理事会の主な議題の説明が大村常務よりなされた。

(5) その他（外洋常任委員会事務局について 等）

大村常務より、鈴木事務局長が監事との兼務を解消するため、事務局長を辞任し、大村常務が事務局長代行を務めることが報告された。

中澤副会長の閉会の言葉で19：40に閉会となった。

以上